

平成 29 年 10 月吉日

特別ユーザー様

愛知電子工業株式会社  
代表取締役会長 松本悦夫  
代表取締役社長 松岡一貴

## 最新機器 MCC&O2JET 体験 及び MCC アカデミー説明会のご案内

錦秋の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。  
先生には日頃から治療機器及び健康グッズご愛用ご販売にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

さて、このたび当社の治療機器の新たなラインナップとして、血管及び筋肉トレーニングが可能になる「MCC マルチカフケア」と全く新しい酸素セラピー「プレミアム O2JET WAVE」が加わることになりました。今まで以上に幅が広い施術が可能となり、また自費施術としても取り入れることが出来ます。

最新機器「MCC」と「O2JET」の説明体験会を下記のとおり開催いたしますのでご案内申し上げます。

また今後「MCC」を広げるため、MCC 認定トレーナーとして体験会やセミナーなどを開催することのできる、認定資格講座（MCC アカデミー主催）開催も予定しており詳細は説明会当日に発表いたします。

今後の治療業界、さらに医療業界に変革を起こすべく新たな事業に取り組んでまいります。そのためにも先生のご協力をお願い申し上げます。

ただし初回募集人数を限定して始めます。今回の説明会のご案内先も絞り込んでお伝えしており、先着 15 名様までとなっておりますので、今後ご協力いただける先生、施術者育成や業務拡大をお考えの先生は早めにお申し込みくださいますようお願いいたします。

### 記

日 時 平成 29 年 12 月 10 日（日）13:00～16:30 終了後懇親会予定  
場 所 梁山泊 治療家のための治療院（新大阪駅徒歩五分）  
大阪市東淀川区西淡路 1-3-2 6 弥生新大阪第 1 ビル 305 号室  
講 師 パワフルライフ株式会社 木村雅弘氏 柔整師、トレーナー  
講師プロフィール別紙  
受講料 ￥1,000  
定 員 先着お申込み 15 名  
主 催 愛知電子工業(株) 共 催 MCC アカデミー 梁山泊  
内 容 MCC 開発経緯、機器説明、  
「RIP」「MC トレーニング」「O2JET」説明体験  
MCC アカデミー及びトレーナーについて、質疑応答  
今後の展開について

以上

# MCC（マルチケアカフ）O2JET 体験及びアカデミー説明会

## — お申込書 —

お申し込み先 愛知電子工業株式会社 FAX052-835-2777 (24時間受付)

お名前	
貴院名	
住所	〒           —
電話番号	
FAX 番号	

MCC・O2JET 体験&MCC アカデミー説明会	新大阪
12:30～	開場・受付開始
13:00～	ご挨拶
13:10～	「MCC」開発経緯、加圧について、 「RIP」「MC トレーニング」説明
13:50～	「O2JET」説明
14:10～	「RIP」体験 「MC トレーニング」体験 「プレミアム O2 ジェットウェーブ」体験
15:30～	MCC アカデミー及びトレーナーについて
16:00～	質疑応答、今後の展開について
16:30～	終了予定
終了後懇親会予定	

お問合せ・お申込み 愛知電子工業株式会社 セミナー事業部

〒468-0067 愛知県名古屋市長区池見 2-88 TEL 052-835-0055 (平日 9:00～17:00)

お申込み後確認のお電話をさせていただきます。 受講料は当日お支払ください。

## 講師プロフィール

### 木村雅弘（1959年6月11日生）梁山泊代表

大学卒業後、新聞記者、IT 会社、ベンチャーキャピタル等の様々な職に就きつつ、生家が柔道場であったため、幼少のころより武術全般を学ぶ傍ら、健康法、スポーツトレーニング学などを習得。2015年よりパワフルライフ株式会社にて、MCC の普及に従事。また2017年より、治療家集団を取りまとめる「梁山泊」を設立、治療家のための治療院を運営。現在に至る。



## MCC 開発者のことば

### 開発者: 福田 博司 ふく田整形外科院長（春日井市）

1983 年名古屋大学医学部卒業。1997 年にふく田整形外科を開業し、多くの患者さんの診療を行ってきました。

2004 年、臨床スポーツの雑誌で加圧トレーニングのことを知り、脊髄損傷で下半身麻痺になったスタッフの回復に効果があるかもしれないと考えました。そこで早速資格を取得し、診療とともに加圧トレーニングにも取り組みました。

加圧トレーニング特定資格者の初回の試験では4人だけの最初の合格者となり、その後は、特定資格者養成講習の講師も勤めました。加圧トレーニング学会では9年連続で発表しました。

そして、一緒に特定資格試験に合格した山崎さんと栗田さんとともに、自動加圧機の開発を進めました。山崎さんが作製した機械を私が評価するという形で開発が進み、山崎さんのお力で自動機は完成しました。

しかし、加圧トレーニングのカフは伸びる素材で作られていて、どうしても正確な圧設定が出来ませんでした。伸びない素材のカフを用いることで、正確な圧設定が出来るようになりました。

ちょうどその頃、山崎さんが米国のご友人から紹介された文献で、RIP のことを知りました。それ以前の RIP の文献もあわせて読み、整形外科のリハビリに効果があると考え、早速 RIP を始めました。その効果は予想通りで、特に急性外傷の治癒までの期間が、70%程度に早くなりました。

しかし脚の場合、RIP のカフ圧を高くすると、締め付けが痛くて、長時間は耐えられませんでした。できるだけ低い圧で RIP を行いたいのですが、それを手動で調節するのは手間がかかりました。また、圧が低すぎると血流が発生して意味



がなくなります。RIP 用のカフはこれまで開発した自動機で圧設定ができましたが、時間がかかりました。圧設定に時間がかかると、RIP の効果が減ってしまいます。

そこで圧設定を短時間で済むようにするためマルチカフを考案しました。RIP 用のカフの下に取り付けたセンサーカフで、適正な圧を短時間で知ることができます。理論的にはひとことで済んでいますが、実現は簡単にはいきませんでした。それでも山崎さんの紹介で製作を引き受けてくれた TOUA さんのご努力もあり、2年半かかって、満足のいく装置が完成しました。脚でも 10 秒以内に RIP を開始でき、その後の圧の変化にも対応します。開発者の私が言うのもなんですが、予想を遥かに超えた良い機械ができました。

それと並行して、MC トレーニングの開発も進めました。

加圧トレーニングは腕や脚の全体の血流を制限して、筋肉の低酸素状態を維持することで、効果的に速筋のトレーニングを行うものです。しかし、特に脚の加圧トレーニングは、加圧を開始してからトレーニング開始までに時間がかかり、加圧している時間が長くなります。

そこで私は筋肉を直接圧迫することで、筋肉の中の血流を制限して、筋肉内を低酸素状態にする方法を思いつきました。この方法を用いると、カフで圧迫後短時間で筋肉内が低酸素状態になり、より確実な速筋のトレーニングを短時間で行うことができました。

さらにマルチカフを使うことで、より安全で効果的なトレーニングとなりました。

このようにマルチカフで、より良い RIP とトレーニングができるようになり、この2つの機能を持つ本機をマルチカフケアと名づけました。

## 開発者: 山崎由久 博士 航空宇宙生理学専門家

東京教育大学（現筑波大学）卒業、米空軍航空学学校修了、東邦大学医学部にて博士号取得。

大学卒業後、航空自衛隊に入隊後パイロットの生理訓練関連装置開発運用（低圧、低酸素環境、耐G、空間識失調、射出座席等）に携わり、航空医学実験隊、航空開発集団医務官等を経て、川崎重工業に入社。航空宇宙技術本部、宇宙機器設計部にて宇宙飛行士の訓練設備の設計及び宇宙服の導入に携わる。

その後、JAMSS（有人宇宙システム）に入社し、宇宙飛行士の養成のための生理訓練等を担当し、JAXA（宇宙開発機構）との契約で、宇宙飛行士健康管理業務の研究支援等を実施した。

退職後、宇宙飛行士の筋力、骨量減少対策として、血流制限状態を定量的に調整する装置を用いたトレーニング法や、血流改善用の駆血法などが出来る機能を備えた装置を開発。

